

ネットワーキング委員会「アートで自分と世界のタイムラインを探る、語る、創造する」報告

ネットワーキング委員会(新見・金南・中尾・藪田・由井)

1. 開催概要

「アートで自分と世界のタイムラインを探る、語る、創造する」

<開催日時>

2022年10月8日(土)13:00-16:00

<開催趣旨>

今回は、アートベースの教育プログラムを実践されている東京学芸大学の笠原広一先生をお迎えし、アートベースのオート・エスノグラフィーを体験しながら、交流できる機会を企画した。さまざまなモノや図や言葉など、多彩な表現形式を使いながら、アートで自分と世界のタイムラインを形にしていくアクティビティを行いながら、小グループで相互の交流を深めていただいた。

<実施形態>

オンライン(Zoom)

<プログラム>

- 13:00-13:10 チェックイン・開会の挨拶・流れの説明
- 13:10-13:20 ワークショップの説明、アートベースの探求について
- 13:20-13:40 アクティビティ:モノをみつけに
- 13:40-14:40 アクティビティ:タイムラインをかく
- 14:40-14:50 休憩
- 14:50-15:30 アクティビティ:タイムラインの創造
- 15:30-15:45 全体まとめ
- 15:45-16:00 事務連絡事項

アクティビティは、4グループに分かれてブレイクアウトセッションを実施。各グループにネットワーク委員1名と、4~5名の参加者を配置。笠原先生による全体セッションを受けて、ブレイクアウトセッション内でアクティビティ共有の実施。最後に全体に戻っての共有、まとめを行った。

2. 参加状況

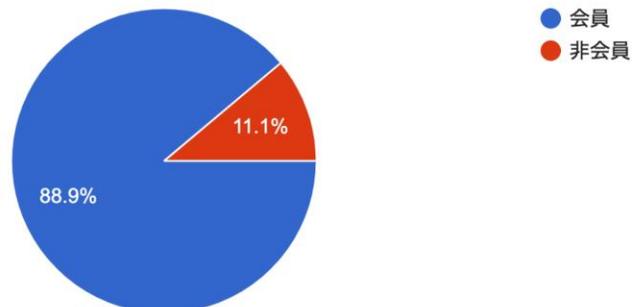
参加者 19名、ネットワーキング委員 4名

オブザーバー参加:正木さん

事後アンケート回答者 18 名

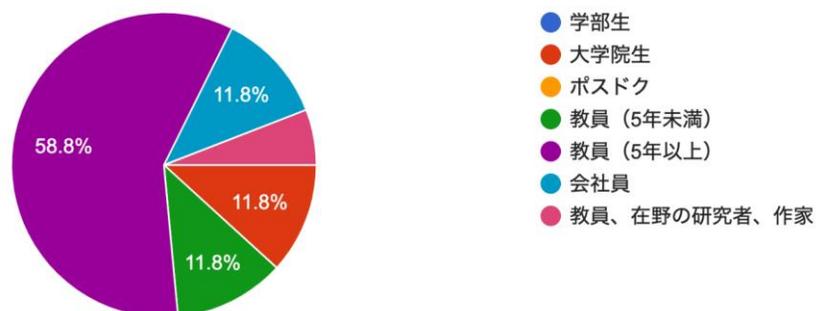
会員または非会員

18 responses



プロフィール

17 responses



3. アンケート結果報告

<感想>

大変勉強になりました。そして楽しかったです。

先生たちのタイムラインなど、知ることが出来て楽しかったです。

作品作成とディスカッションがほどよいバランスでした。グループ内で、互いに質問しあえる時間があるともっとよかったです。

いつもとは違う経験でした。ありがとうございます。

改めてアクティビティに触れてみて、身の回りのグッズからこれほどまでに人生が雄弁に語られるのか、と驚きを感じました。とても楽しいワークショップでした。笠原先生ありがとうございました。

ことばで考えるその先、あるいは下の層の自己が見えたようです。とても有意義で深く楽しい時間でした。企画してくださり感謝のことばしかありません。

アートの観点から見ると、そういう見方もあるのかとか、場と人とモノの織りなす生成性に感動しました。

グループワークは充実した時間でした。全員初対面の皆さんでしたが、それぞれが歩んでこられた人生の一片が語られる様子が刺激的でした。ドクター学生としては大変励まされました

参加者の方々との交流がとても楽しかったです。

テーマ的にも先生の語りもフレンドリーな感じで良かったです。

笠原先生のワークショップにぜひ一度参加させていただきたいと思い、今回参加しました。

「自分が大学生を対象に授業の中で行うとしたら」という観点で色々考えることができました。特に学生間で共有してもらおう際に、思入れのあるものやタイムラインを共有することはとてもパーソナルなことでもあるので、自分自身について探るという点でとても面白い活動であるのと同時に、新しく生まれたもの（自分にとって新たな自分）を自分で十分に消化する前に共有するという点について、どのようにファシリテートするとよいかなどを考えていました。自分1人で取り組む場合と、共有が前提となる場合では表現されるものが異なるかもしれないのと、「共有」することの意味などについて考えました。答えがあるものではないのですが、今後もアートベースについて考えていきたいと思う時間になりました。多くの刺激をいただきました。ありがとうございます。

自分のこれまでの人生を振り返る良い経験になりました。とくに、身の回りのものを題材に考えていく作業は初めての経験で、とても興味深かったです。また、以前より興味のある研究方法を実際に経験でき、とても良い機会でした。今後も個人的にアートグラフィーについて調べたいと思いました。

今回も大変面白い交流会でした。私も研究でマップやタイムラインを描いてもらったり、写真を撮ってそれについて話してもらったりしていますが、何よりも「アート(未満?とは?)」の活動によって関係性や対話が広がるのが今回の企画で改めて実感できました。今日一緒にグループだった方々の論文を読む時には、より3Dな感覚で解釈が進みそうです。

内容としてはアートというより自分のキャリア、タイムラインを自分の周りにあるものを使って表現するのではないかと感じた。ブレイクアウトでの話し合いを非常に深いものでした。この学会の方々のキャリアの深さを感じました。

活動と対話を通して、1人では気づけないこと、思いが及ばないことに出会えました。自分が即興でつくったものに意味を見いだしてもらえるとというのも、とても新鮮で楽しい経験でした。人の集う場の力を実感するひとときでした。

自分のことについてアウトプットする機会になった。

もともと関心があったテーマだったので、まずその時点でとてもワクワクしていました。グループ単位での活動は、ファシリテータの由井先生がとてもいい感じの雰囲気づくりをしてくれたこともあり、誰もが積極的に声をだして、やりとりに参加していました。誰かの言葉が誰かの気づきになって、その気づきが全体の発見になる経験ができてとても良かったです。良い機会をありがとうございました。

アンケートの回答が遅れてしまい申し訳ございません。

改めまして、交流会に参加させていただきまして、誠にありがとうございました。

会員ではないのですが、グループディスカッションにおいても、あたたかい雰囲気の中でお仲間に入れていただき、皆様とお話ができて大変楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

私は、日頃から子どもの造形に関わるワークショップを行い、子どもが<つくる>ことを通してアイデアを具現化していくプロセスに興味をもちています。

研究活動の中で、今回講師をされた笠原先生の論文やご著書には、日頃よりお世話になっておりましたので、笠原先生のお話を直接伺うチャンスということで参加をさせていただきました。

「自然科学的なアプローチ」ももちろん大切ですが、私としては「芸術的なアプローチ」に大変興味があります。同様に、Arts-Based Research (ABR) にも興味があるのですが、なかなかうまく取り込めていない現状がありました。

今回、改めて笠原先生から「自然科学的なアプローチ」と「芸術的なアプローチ」についてのお話を伺ったり、実際にワークショップに参加したりすることによって、色々と勉強になりました。

そして、引き続き自分なりにがんばってみようという活力を得ることができました。

今回は、貴重な機会をいただき感謝しております。

ありがとうございました。

<今後のアイデア>

似たようなWSをぜひまたお願いします。

スポーツ

今後もアート関連のワークショップをお願いいたします。

アートのテーマは継続してほしいです。

年間を通してオンラインのイベントが多くあると思うのですが、オンラインであっていた方々と大会の時に対面で繋がれるような仕掛けがあったりすると面白いなと思いました。もちろんみなさんが参加されるわけではないので、難しいところではあるのですが。どんな活動があったのかのグラレコを会場のどこかに貼るとか?その連絡版みたいに付箋貼ったり?アイデアがまとまらずにすみません。

異文化間の対話について深く話してみたい。

いい視点で企画をしてくださるので毎回楽しみです!取り上げて欲しいテーマは特に今ぱっと浮かばないのですが、いつも楽しみにしています!

4. 振り返り

ネットワーキング委員会の秋の交流会は、東京学芸大学の笠原広一先生を講師としてお招きし、アートベースのオートエスノグラフィーを体験しながら、自己の振り返りと参加者同士の交流を行うという企画で実施した。昨年度からのネットワーキング委員の活動では、ネットワーキング委員が中心となって運営をする形をとってきたため、今回は別の講師にお願いすることによって、異なる視点からのアプローチを取り入れられるようにした。

事前に、笠原先生とネットワーキング委員により、同様のワークショップの体験リハーサルを実施し、スムーズな運営のあり方を検討した。当日は、ネットワーキング委員はアクティビティには参加しないものの、それぞれのブレイクアウトルームでの進行役を行った。

当日は、5年以上の教員参加者の割合半数以上を占めた。事前にグループ分けを行い、経歴の長い者とそうでない者が含まれるように準備していたが、当日の欠席もあり一部偏りが生じてしまったグループもあった。ベテラン・若手の交流ができるようなグループ構成は引き続き課題である。

参加者のフィードバックから、参加者の一定数の方々は、既にアートベースの活動や、ワークショップ運営に関して経験を持っていたことが確認できた。これらの経験者の方々により、ワークショップにおけるアクティビティがスムーズに実施できた上、交流も深まったと感じている。また、参加した方々の多くから肯定的な意見をいただけた。講師の笠原先生や、経験者を含む参加者の皆さんに改めて感謝したい。

今後のイベントに向けた意見の中には、アート関係の活動への一定のニーズが見られた。また、オンラインイベントでの参加者が、大会時に対面で交流できるようにしてはとの案もいただいた。来年3月のイベントもオンライン(または、一部対面)での実施を考えているため、そのイベントも含めて、次回の大会での対面の交流との連動も視野に入れて準備をしてみたい。今回のイベントでは、比較的若手の参加者が限られていたことから、次回春のイベントでは、若手を意識したものを企画したいと考えている。大会時のイベントのアンケートで、特に若手の会員からは、研究に関する悩み(方法、テーマなど)や、学生から教員への移行といったキャリアについて、ベテランや若手を交えて交流を行いなら意見交換ができる場へのニーズがみられている。これらをヒントにしながら、次回イベントは、2/3月頃実施する予定とし、企画準備を少しずつ開始する。